



株式会社東芝 研究開発センター サイトレポート情報
所在地 : 神奈川県川崎市幸区小向東芝町1番地
敷地面積 : 38,010m ² 、建家面積 : 80,000m ² 、緑化率16.96%
設立 : 1961年7月、従業員 : 1172人 (2011年3月現在)
主要製品 : 東芝グループの事業に関わる研究開発全般
ISO14001認証取得 : 1997年9月、最新更新年月 : 2009年9月 (ISO認証番号 : EC97J1086)



ごあいさつ

研究開発センターでは、基盤技術を磨き、他社に先駆ける新たな商品や核となる技術を早く生み出すことを目指しています。その一環で、エコバリューイノベーションを積極的に推進し、「優れた環境調和型の製品」の創出に取り組んでいます。また、東日本大震災により、エネルギーや環境への見方が大きく変化していますので、今年度からは特に、省エネ技術、創エネ技術への取り組みを強化する所存です。



環境保全責任者 齊藤 史郎

2010年度の環境の主な取組み

1. エコテクノロジーの研究開発加速

省エネ・低炭素化に貢献する技術（スマートグリッド、白色LED、有機EL、エコチップ、液晶テレビのエッジライトLEDバックライト制御技術、立体型トランジスタなど）、水浄化材料などの再資源化技術、気象レーダ用超伝導フィルタなどの気候変動適応技術など、幅広い技術の研究開発

2. 有害化学物質排出量の削減

東芝グループ削減対象物質排出量把握と削減施策実施 実績 : 759.1kg、目標値 (797.9kg) の-4.4%

3. エネルギーの有効利用と節減

省エネ法および川崎市温暖化対策条例を考慮したエネルギーの適正使用 (使用量把握、削減施策実施)
年間エネルギー使用量実績 : 7443kl、目標値 (7757kl) の-4.0%

4. 廃棄物の総量削減およびリサイクルの推進

東芝グループ第4次環境ボランティアプランの目標達成を目指した廃棄物総量および最終処分率の把握
年間総排出量実績 : 97.4kg/人、目標値 (100.2kg/人) の-6.8%
年間最終処分率実績 : 0.34% (目標値0.5%以下)

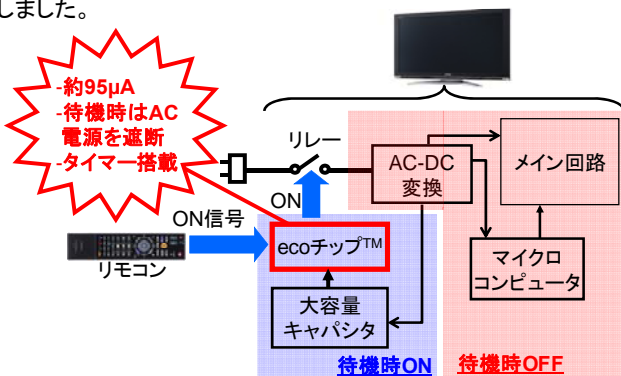
5. グリーン調達

Tomorrow手配件数におけるエコ製品利用率の把握 年間累計実績 : 25.4% (目標値20%以上)

製品・環境技術開発、環境配慮ポイントの紹介

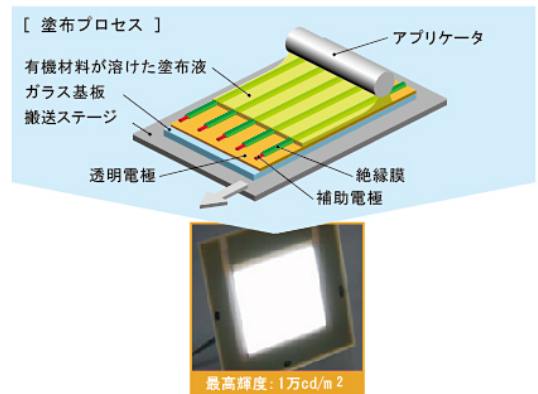
ecoチップ™

TV等のリモコンの赤外線信号を、超低消費電力で受信するecoチップ™を開発しました。録画予約や、番組表ダウンロード等の従来機能に対応しつつ、待機電力を従来の約1/1000に削減しました。



有機EL

有機材料を塗るだけで面照明素子をつくる、低コストで省エネルギーの塗布プロセスを開発しました。材料の改良により発光効率を改善しました。窓ガラス照明、曲がる照明など、新しい照明機器の実現を目指します。



環境コミュニケーションの紹介

- ・多摩川河川敷および事業場周辺の清掃(2010年7月、12月)
- ・地域の方へ環境および事業活動の3事業所合同説明会(2010年10月)
- ・看板ネオンの点灯時間短縮(日没から19:00まで点灯、通年)

<東芝科学館において>

- ◆環境コーナー整備・拡充:
スマートグリッド、太陽光発電展示新設(2010年9月)
- ◆出張科学教室実施(49件)
- ◆中高生向け館内講師による環境セミナースタート(2010年10月)
- ◆小学生向け環境クイズの充実、他新コンテンツの作成(5件)

環境方針

株式会社東芝 研究開発センター 環境基本方針

株式会社東芝 研究開発センターは、東芝グループが環境ビジョン2050で掲げる

「地球と調和した人類の豊かな生活」

に向けて、東芝グループの事業全般に関わる、優れた環境調和型の製品や技術の研究開発を通じて社会に貢献することを目指します。そして、“かけがえのない地球”を健全な状態で次世代に引き継いでいくために、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指した環境経営を積極的に推進し、持続可能な社会の実現に貢献します。

環境経営の推進

環境に関する法的要求事項や東芝グループの目標、指針を遵守することを基礎として、研究開発および事業場運営に関わる環境側面の生物多様性を含む環境影響評価を行い、環境負荷の低減、汚染の防止などに関する環境目的、目標を設定し、従業員等関係者全員で推進します。
監査の実施や活動のレビューにより環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。

環境調和型の製品・技術の研究開発推進と事業場運営での環境負荷低減

地球資源の有限性を認識し、研究開発、事業場運営の両面から有効な利用、活用を促進する以下の施策を展開し、環境負荷および環境リスクを低減するとともに、新しい豊かな価値の創造に取り組みます。

- ①エコテクノロジーの研究開発推進
- ②有害化学物質排出量の削減
- ③エネルギーの節減および有効利用
- ④廃棄物の排出量削減と最終処分率の低減
- ⑤グリーン調達推進

地域社会の一員として

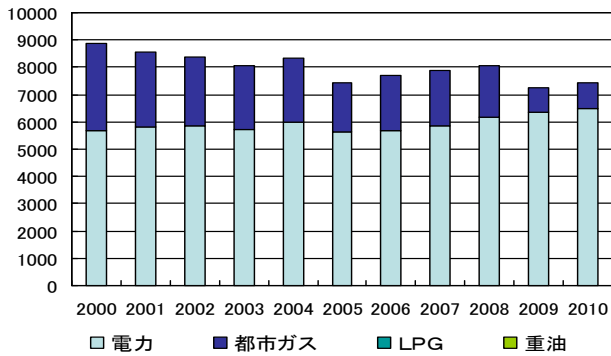
優れた環境調和型の製品や技術に必要な研究開発の推進に加え、地域・社会との協調連帯により、環境活動を通じて社会に貢献します。
相互理解の促進のために、積極的な情報開示とコミュニケーションを行います。

2011年6月22日
株式会社 東芝
研究開発センター 所長

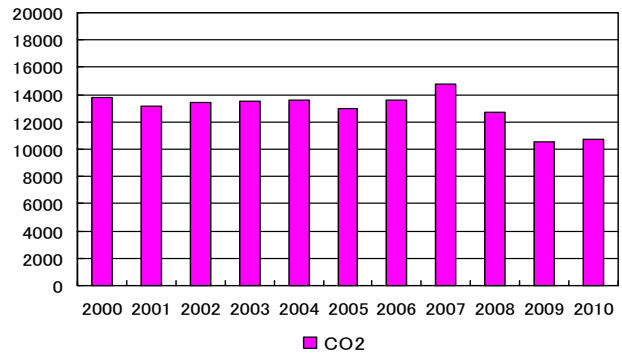
斎藤史郎

環境負荷データ

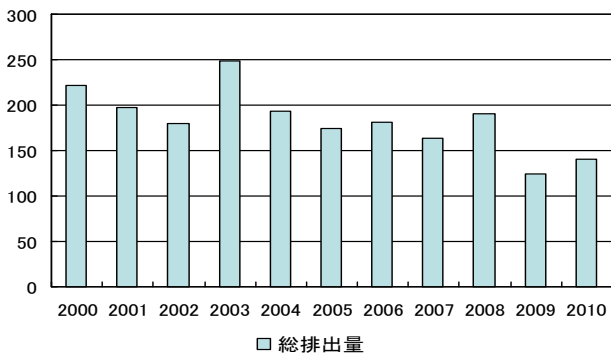
エネルギー使用量(単位:KL)



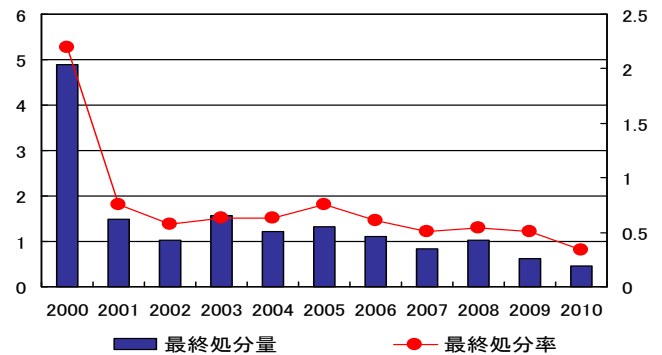
CO₂排出量(単位:トン-CO₂)



廃棄物総発生量(単位:トン)

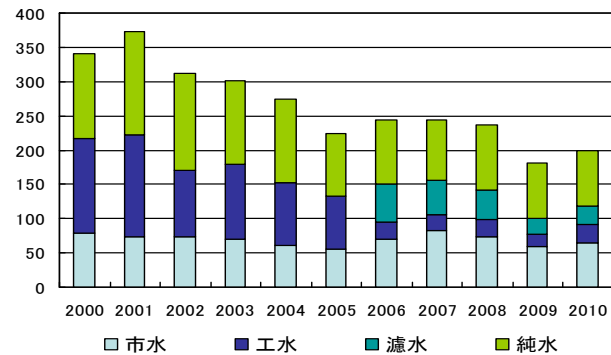


廃棄物最終処分量と最終処分率(単位:トン、%)

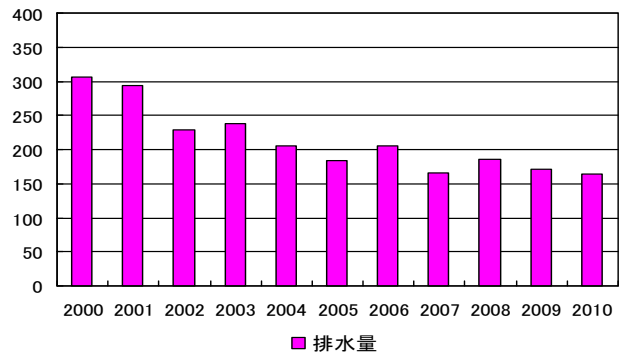


主な廃物名:酸、汚泥、金属、ガラス、プラスチック、油等

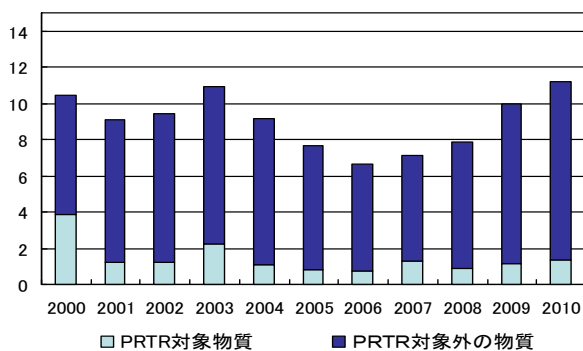
水の使用量(単位:千m³)



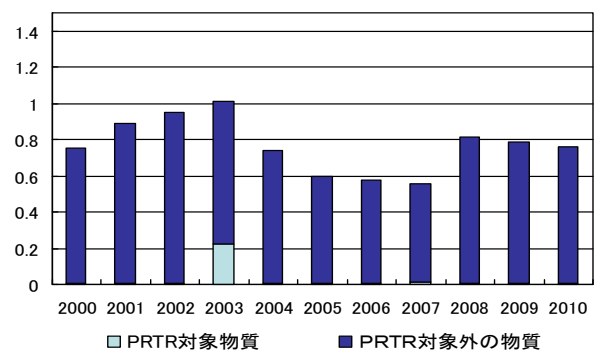
排水量(単位:千m³)



化学物質削減対象物質の取扱量(トン)



化学物質削減対象物質の排出量(トン)



主な化学物質:硫酸、アセトン、ふっ化水素およびその水溶性塩、エチルアルコール、塩酸、NMP、IPA

遵法管理状況

<大気測定結果>

	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
NOx(ppm)				
SOx(Nm3/h)	該当なし			
ばいじん(mg/Nm3)				

<排水測定結果>(主な測定結果)(下水道へ排出) * 規制値は川崎市条例基準

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.0超~9.0未満	6.0以上 8.0以下	6.8~7.5	2回/月(常時)
BOD(mg/ℓ)	600未満	300以下	4~31	1回/月
COD(mg/ℓ)	規制対象外	—	—	—
SS(mg/ℓ)	600未満	300以下	2~27	1回/月
窒素(mg/ℓ)	240未満	120 以下	検出限界値(2) ~5	1回/月
フッ素(mg/ℓ)	15以下	7.5以下	検出限界値(0.5)	1回/月

<騒音・振動測定結果>

	測定場所:時間	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音(dB)	敷地境界:昼	65	62	32~51	2回/年
	敷地境界:夜	55	52	32~48	2回/年
振動(dB)	敷地境界:昼	70	67	測定限界値(30)	2回/年
	敷地境界:夜	60	57	測定限界値(30)	2回/年

<その他測定結果> (下水道法:主な測定結果)

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)				
BOD(mg/ℓ)	該当なし			
SS(mg/ℓ)				

<環境事故・指導指摘・苦情の有無>

	状況
環境事故発生の有無	なし
工場周辺や地域での環境問題発生の有無	なし
行政からの指導・指摘の有無	なし
近隣住民からの苦情の有無	なし